

〔報 告〕

産後の夫婦関係及び出産満足度と「対児感情及び母親役割行動」との関連

盛山 幸子¹⁾ 島田三恵子¹⁾ 足立 智美²⁾

要 旨

【目的】産後の夫婦関係及び出産満足度と、対児感情及び母親役割行動との関連を明らかにすることを目的とした。

【方法】3か月児を持つ初産の母親87人（有効回答率36.7%）を対象とした。対象の属性及び背景、出産満足度、夫婦関係、対児感情、母親役割行動について調査し、対児感情得点及び母親役割行動と、夫婦関係との相関関係を分析した。

【結果】夫婦関係得点と対児感情接近得点との間に正の相関（ $r=0.248$, $p<0.05$ ）が見られた。夫婦関係得点と母親役割行動合計得点（ $r=0.332$, $p<0.01$ ）、母親役割行動項目の「児に頬ずりしたり児を抱きしめたりしている」（ $r=0.249$ ）、「児の笑顔を見ると自分も嬉しくなる」（ $r=0.220$ ）、「自分から児に声をかけたり話かける」（ $r=0.269$ ）、「児のためになることなら何でもしたい」（ $r=0.299$ ）（ $p<0.05$ ）の各々に正の相関が見られ、その他の項目との間にはそれぞれ相関はなかった。夫婦関係高得点群の方が低得点群よりも母親役割行動得点が高かった（ $p<0.05$ ）。出産満足度と対児感情拮抗指数との間に正の相関（ $r=0.250$, $p<0.05$ ）が見られ、出産満足度と母親役割行動項目の「児と一緒に過ごすのは楽しい」（ $r=-0.374$, $p<0.01$ ）、「児の笑顔を見ると自分も嬉しくなる」（ $r=-0.244$ ）、「児のためになることなら何でもしたい」（ $r=-0.264$ ）、「児にとって自分は重要な存在であると思う」（ $r=-0.239$ ）、「できるだけ児のそばに居てあげたい」（ $r=-0.225$ ）、「児の生活リズムを都合に合わせない」（ $r=-0.246$ ）、「児の世話よりも自分のことを優先しない」（ $r=-0.248$ ）（ $p<0.05$ ）各々の負の相関が見られ、その他の項目との相関はなかった。

【結論】産後の夫婦関係と母親の児への愛着の高まりに関連がある。良好な夫婦関係は母親役割行動の高まりにつながることを示唆された。

キーワード：夫婦関係、出産満足度、対児感情、母親役割行動

1. 緒 言

近年、少子化、核家族化、近隣者との関係の希薄化が進み、育児環境の変化により育児における母親への負担は増加してきている¹⁾。その結果、母親の育児に対する不安やストレスが原因で乳幼児の虐待が増加傾向にあり²⁾、社会問題となっている。これを受けて育児不安や育児ストレスについての研究は数多くされており、育児不安の要因として夫婦関係

や社会的な人間関係、母親の抑うつ状態、子どもの気質的要因による育児への自信喪失などが挙げられている³⁾。そして、夫婦関係は妊娠・出産というライフステージにより変化し、妊娠・出産・育児の時期は、夫婦関係の変化が特に著しい時期であると考えられる。妊娠期では夫に対する信頼が妻の夫への愛情を深めるが、出産後は夫による実際のサポートが夫婦関係に関連すること⁴⁾や夫婦関係と育児不安との関連についても報告されている⁵⁾⁶⁾。また、佐藤⁷⁾は、出産後18か月における「夫の態度」「子どもの問題」「母親としての自己評価」「抑うつ傾向」が育

1) 大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻

2) 浜松医科大学医学部看護学科

児に対する心配や困惑、不適格感、攻撃衝動性やネガティブな捉え方に影響を及ぼすと述べている。さらに、出産時の満足度が児への愛着に関連しているとの報告もある⁸⁾⁻¹⁰⁾。そのため、出産満足度の影響も考慮しながら夫婦関係との関連を明らかにする必要がある。これらの報告から夫婦関係と母親の育児行動や児への愛着との関連性を明らかにし、育児期の家族支援を検討する必要があると考える。しかし、夫婦関係や育児に対する自信につながる母親役割行動、児に対する愛着などのそれぞれの関連性に焦点を当てた研究は少ない。

そこで、児への愛着が確立する¹¹⁾¹²⁾とされる産後3か月の母親を対象に、夫婦関係及び出産満足度と、対児感情及び母親役割獲得との関連を明らかにすることを目的として本研究を行った。

II. 研究方法

1. 対象

大阪府内の総合病院の小児科外来及び同府内の保健福祉センターの3か月乳児健診に来所した初産の母親で、調査協力に同意の得られた産後3か月の母親87人（有効回答率36.7%）を対象とした。

2. 方法

1) 対象者の抽出方法

上記の施設の健診受診時に、対象となる母親に対し調査協力依頼文書を用いて研究の概要を説明し、研究協力を依頼した。そのうち、研究参加の意思を示した母親237人に対し調査票を配布した。回収は病院では留置き法と郵送法のいずれかを対象者が選択し、保健福祉センターでは全て郵送法とした。なお、本研究は大阪大学保健学科倫理委員会の承認を得て実施したものである。

2) 調査内容

調査項目は対象の属性及び背景、出産満足度、夫婦関係尺度10項目、対児感情評定尺度28項目、母親役割行動の項目で構成されている。

(1) 夫婦関係

夫婦の愛情と親密性を評価する尺度として菅原らにより作成¹³⁾され、信頼性及び妥当性が検証されているMarital Love Scaleを用いた。評点は「全くあてはまらない」の1点～「非常によくあてはまる」の7点までの7段階、10項目である。合計得点は10点から最高70点で、得点が高いほど夫への愛情が高いことを表す。

(2) 対児感情

花沢が開発した対児感情評定尺度¹⁴⁾を使用した。児に対する愛着的感情・肯定し受容する方向の感情を接近感情、嫌悪的感情・児を否定し拒否する方向の感情を回避感情としており、信頼性・妥当性が確認されている。採点は、「非常にそのとおり」を3点、「そのとおり」を2点、「少しそのとおり」を1点、「そんなことはない」を0点としている。また、回避得点（回避感情14項目の合計得点）を接近得点（接近感情14項目の合計得点）で除した拮抗指数を求めた。

(3) 母親役割行動

母親役割行動項目は、平尾ら¹⁵⁾の母親行動の項目を参考に使用する旨了承を得て、作成した。「しない（ならない）」～「よくする（よくなる）」の4段階17項目とした。項目ごとに1点～4点とし、点数が高いほど母親役割行動がとれていることを示す。項目の内容妥当性については助産学研究者と助産学領域の大学院生5人で検討し、修正を重ね作成した。本研究の対象者におけるCronbachの α 係数は、母親役割行動合計得点で0.580であった。

(4) 出産満足度

分娩時の満足度である出産満足度は、「満足」「やや満足」「中間」「やや不満」「不満」の5段階のリッカート尺度である。出産満足度は、先行研究⁸⁾⁻¹⁰⁾で児への愛着に影響を及ぼすと考えられるため、項目に含めた。

3) 分析方法

従属変数である対児感情得点及び母親役割行動得点と、説明変数である夫婦関係得点との相関にはピ

アソンの積率相関, また, 夫婦関係得点について, 先行文献¹³⁾では点数の平均点を2群に分類する基準としているため, 本研究では平均得点が50.4点であることから, 先行研究と同様の基準で51点以上を高得点群, 50点以下を低得点群とした. 2群に分けた高得点群と低得点群の比較には, 対応のないt検定を行った. 分析は社会統計ソフトSPSS12.0J for Windowsを用いて行った.

III. 結果

1. 対象の背景

対象者の背景について, 表1に示す. 平均年齢は29.7±4.1歳であった. 就業については仕事を持っている人が19人(22.4%), 仕事を持っていない人は66人(77.6%)であった. 出産週数は38.9±2.1週で, 児体重は2,889.3±468.9gであった. 家族形態は核家族が79人(92.9%), 拡大家族は6人(7.1%)であった.

2. 夫婦関係, 対児感情, 母親役割行動及び出産満足度

夫婦関係得点は, 50.4±10.6 (range23~69)であった. 対児感情接近得点は30.8±6.5 (range13~42), 回避得点は6.3±3.9 (range0~22), 拮抗指数は21.7±15.6 (range0~100)であった. 母親役割行動合計得点は61.5±4.0 (range51~68)であった. 母親役割行動の各項目の得点については表2に示す. 出産に対して「満足」と答えた人は56人(64.4%), 「やや満足」17人(19.5%), 「中間」10人(11.5%), 「やや不満足」2人(2.3%), 「不満足」1人(1.1%)であった.

3. 夫婦関係と対児感情及び母親役割行動との関連性(表2)

夫婦関係得点と対児感情接近得点とに正の相関が見られ, 対児感情回避得点, 拮抗指数との有意な相関は見られなかった. また, 夫婦関係得点と母親役割行動合計得点との正の相関, 同様に母親役割項目の「児に頼りしりたり児を抱きしめたりしている」,

表1. 対象の背景

		(n=87)
年齢(平均±SD) (range)	29.7±4.1 (21-39)	
就業の有無		
仕事あり	19 (22.4%)	
仕事なし	66 (77.6%)	
合計	85 (100.0%)	
出産週数(平均±SD) (range)	38.9±2.1 (28-42)	
児体重(平均±SD) (range)	2,889.3±468.9 (1,774-3,856)	
分娩様式(複数回答)		
自然分娩	53 (60.9%)	
吸引分娩	12 (13.8%)	
鉗子分娩	0 (0.0%)	
帝王切開	18 (20.7%)	
陣痛誘発	10 (11.5%)	
陣痛促進	8 (9.2%)	
その他	3 (3.4%)	
家族形態		
核家族	79 (92.9%)	
拡大家族	6 (7.1%)	
合計	85 (100.0%)	

表2. 夫婦関係得点と対児感情得点, 母親役割行動得点との相関

	相関係数	有意差
対児感情・接近得点	r=0.248	*
対児感情・回避得点	r=-0.083	n.s.
対児感情・拮抗指数	r=-0.154	n.s.
母親役割行動項目		
児の目を見つめて話しかけている	r=0.106	n.s.
児に頼りしりたり児を抱きしめたりしている	r=0.249	*
児の笑顔を見ると自分も嬉しくなる	r=0.220	*
児の授乳や栄養には気がつかっている	r=0.212	n.s.
自分から児に声をかけたり話かける	r=0.269	*
児と一緒に過ごすのは楽しい	r=0.086	n.s.
児のためになることなら何でもしたい	r=0.299	*
どんな時でも児の気持ちを理解したい	r=0.178	n.s.
児が目の届く範囲にいないと気になる	r=0.160	n.s.
ぐずったり泣き止まない時なだめられる	r=-0.010	n.s.
児が泣くとすぐにあやす	r=0.017	n.s.
児を他人に預けた時, どうしているか気になる	r=0.133	n.s.
児にとって自分は重要な存在であると思う	r=0.133	n.s.
できるだけ児のそばに居てあげたい	r=0.118	n.s.
児は自分のしたい事を邪魔すると思わない	r=0.213	n.s.
児の生活リズムを都合に合わせない	r=0.077	n.s.
児の世話よりも自分のことを優先しない	r=0.188	n.s.
母親役割行動合計得点	r=0.332	**

** : p<0.01, * : p<0.05
n.s. : not significant

表3. 夫婦関係高得点群と低得点群における対児感情、母親役割行動得点の比較

	愛情低得点群 (n=38)	愛情高得点群 (n=49)	合計 (n=87)	有意差
【対児感情】				
対児感情 接近得点	29.4 ± 6.6	31.6 ± 6.3	30.8 ± 6.5	n. s.
対児感情 回避得点	6.9 ± 3.8	5.8 ± 4.0	6.3 ± 3.9	n. s.
対児感情 拮抗指数	24.9 ± 14.7	19.6 ± 16.1	21.7 ± 15.6	n. s.
【母親役割行動】				
児の目を見つめて話しかけている	3.89 ± 0.05	3.87 ± 0.08	3.88 ± 0.04	n. s.
児に頼りすぎたり児を抱きしめたりしている	3.84 ± 0.06	3.89 ± 0.05	3.87 ± 0.04	n. s.
児の笑顔を見ると自分も嬉しくなる	3.92 ± 0.04	4.00 ± 0.00	3.97 ± 0.02	n. s.
児の授乳や栄養には気がつかっている	3.35 ± 0.10	3.66 ± 0.08	3.52 ± 0.07	n. s.
自分から児に声をかけたり話かける	3.89 ± 0.05	3.96 ± 0.03	3.93 ± 0.03	n. s.
児と一緒に過ごすのは楽しい	3.76 ± 0.07	3.81 ± 0.07	3.79 ± 0.05	n. s.
児のためになることなら何でもしたい	3.61 ± 0.08	3.81 ± 0.06	3.72 ± 0.05	n. s.
どんな時でも児の気持ちを理解したい	3.79 ± 0.08	3.87 ± 0.05	3.84 ± 0.04	n. s.
児が目の届く範囲にいないと気になる	3.50 ± 0.08	3.66 ± 0.08	3.57 ± 0.06	n. s.
ぐずったり泣き止まない時なだめられる	3.71 ± 0.08	3.55 ± 0.10	3.63 ± 0.06	n. s.
児が泣くとすぐにあやす	3.50 ± 0.08	3.54 ± 0.07	3.52 ± 0.05	n. s.
児を他人に預けた時、どうしているか気になる	3.49 ± 0.11	3.68 ± 0.08	3.60 ± 0.06	n. s.
児にとって自分は重要な存在であると思う	3.76 ± 0.07	3.87 ± 0.05	3.83 ± 0.04	n. s.
できるだけ児のそばに居てあげたい	3.74 ± 0.08	3.85 ± 0.05	3.80 ± 0.04	n. s.
児は自分のしたい事を邪魔すると思わない	2.78 ± 0.15	3.19 ± 0.13	3.03 ± 0.10	n. s.
児の生活リズムを都合に合わせない	2.76 ± 0.12	2.89 ± 0.13	2.84 ± 0.09	n. s.
児の世話よりも自分のことを優先しない	3.16 ± 0.12	3.34 ± 0.10	3.26 ± 0.08	n. s.
母親役割行動合計得点	60.20 ± 0.67	62.41 ± 0.57	61.46 ± 0.44	*

夫婦関係高得点群と低得点群との比較 unpaired t-test
母親役割行動項目の値は平均±SE

*: $p < 0.05$
n. s.: not significant

「児の笑顔を見ると自分も嬉しくなる」、「自分から児に声をかけたり話かける」、「児のためになることなら何でもしたい」とに正の相関が見られたが、他の項目との有意な相関は見られなかった。さらに、夫婦関係得点の50点以下を愛情低得点群、51点以上を愛情高得点群として2群における対児感情及び母親役割行動得点を比較すると、愛情高得点群の方が母親役割行動合計得点が有意に高かった ($p < 0.05$)。対児感情接近得点、回避得点、拮抗指数については有意な関連は見られなかった (表3)。

4. 出産満足度と対児感情、母親役割行動との関連性、及び夫婦関係との関連性

出産満足度と対児感情拮抗指数との正の相関 ($r = 0.250$, $p < 0.05$) が見られた。しかし、出産満足度と「児と一緒に過ごすのは楽しい」 ($r = -0.374$, $p < 0.01$)、「児の笑顔を見ると自分も嬉しくなる」 ($r = -0.244$, $p < 0.05$)、「児のためになることなら何でもしたい」 ($r = -0.264$, $p < 0.05$)、「児に

とって自分は重要な存在であると思う」 ($r = -0.239$, $p < 0.05$)、「できるだけ児のそばに居てあげたい」 ($r = -0.225$, $p < 0.05$)、「児の生活リズムを都合に合わせない」 ($r = -0.246$, $p < 0.05$)、「児の世話よりも自分のことを優先しない」 ($r = -0.248$, $p < 0.05$) の項目の得点との弱い負の相関が見られた。出産満足度と接近得点、回避得点、その他の母親役割行動項目、夫婦関係得点それぞれの得点との有意な相関は見られなかった。

IV. 考 察

1. 夫婦関係と対児感情及び母親役割行動との関連性

今回、児への愛着が確立する¹¹⁾¹²⁾とされる産後3か月の母親を対象として、対児感情や母親役割獲得に及ぼす夫婦関係について検討した結果、母親の夫への愛情が強いほど児に対する愛着的感情が強いことが明らかになった。先行文献では、母親評価によ

る夫婦関係は子どもの愛着の発達と関連すると報告されている¹⁶⁾。これらのことから、良好な夫婦関係が児への愛着につながると考えられる。

また、夫への愛情が強いほど母親役割行動を獲得できていたことから、良好な夫婦関係とよりよい母親役割獲得との関係性が明らかになった。特に子どもの笑顔を見ると自分も嬉しくなったり、子どものためになることなら何でもしたいという気持ちや、子どもに頬ずりしたり抱きしめたり、自分から子どもに声をかけたりする母親行動が獲得されやすい状況にあることが示唆された。金井は、夫に対する評価の高い母親は母親アイデンティティと母親役割に対する肯定的感情が強かったことを報告している¹⁷⁾。つまり、夫に対する否定的な感情やストレスが軽減され、良好な夫婦関係が確立されることで育児環境が整い母親の精神的な安定や満足が得られ、母親役割の受容につながると考えられる。

2. 出産満足度と対児感情及び母親役割行動の関連性

出産体験が挫折・失敗体験、わだかまりの残る体験となると、自己概念や母親としての意識を低下させ母親としての自信を喪失し、産後の母性行動にも否定的な影響を及ぼすとされている¹⁸⁾。そこで、本研究では、対児感情や母親役割行動に影響を及ぼすと考えられる出産満足度との関連を検討した。その結果、出産満足度と児に対する愛着的感情や拒否的な感情との関連は見られなかった。また、出産満足度と母親役割行動項目との関連から、出産に対して満足していない母親ほど子どもに対して何かしてあげたいという母親役割行動をとる傾向があり、育児では子どもに尽くしたいという心理が影響していると考えられる。このことから、万一よい出産体験でなくても産後の児への愛着形成や母親役割行動の獲得に大きくは影響がないことが示唆された。しかし、出産満足度と児へのアンビバレントな感情を示す対児感情拮抗指数とに正の相関が見られ、出産に対して満足している母親ほど子どもに対してアンビバレントな感情が大きいというのは興味深い結果である。

3. 夫婦関係と出産満足度との関係性、対児感情及び母親役割行動との関連性

今回、夫婦関係と出産満足度との間に関連がなかったことから、夫婦関係は出産満足度とは独立して対児感情及び母親役割行動に影響していることが明らかになった。

これらのことから、児に対する愛着を高め、よりスムーズに母親役割を遂行することができるように、育児期に夫婦関係を維持・増進していくための関わりが重要であると考えられる。具体的には、土日、休日を利用したパパママサークル（父親母親の交流の機会）や、良好な夫婦関係を維持している夫婦が語る講話への参加、専門家のみならず先輩ママ・パパからのアドバイスが受けられるシステム、父親同士、母親同士が日々の生活や育児について情報交換や意見交流できる場などをさらに充実させることが有効であると考えられる。そして、夫婦相互に出産・育児・児への関心を高め、新しい家族形成に向けて共に前向きに邁進していけるよう、夫婦のコミュニケーションと夫婦双方の取り組みが大切であることを伝えていくことが重要である。つまり、夫婦お互いが担う役割調整、双方の役割への感謝、絆の深め合いなどの機会を持てるように関わるのが大切である。さらに、出産や育児に対する母親への精神的・社会的支援をより積極的に行うとともに、母親だけでなくその夫の状況も把握しながら両者に働きかける調整役となり、夫婦・家族への支援を充実させることで、よりよい夫婦や家族間の関係性を構築していく働きかけが重要であると考えられる。

なお、本研究の限界について、今回、1地域の中の2施設での調査であり、一般化することは難しい。今後、より広範囲の地域で調査することが必要であると考えられる。また、母親役割行動項目について本研究では項目ごとの分析に留まったため、母親役割行動全体を網羅する項目のさらなる吟味と検討が必要である。

V. 結 論

- ① 夫婦関係は出産満足度とは独立して対児感情及び母親役割獲得に関連していた。
- ② 夫婦関係得点が高いほど児に対する愛着的感情が強かった。
- ③ 夫婦関係高得点群は低得点群よりも、母親役割行動合計得点が有意に高かった。
- ④ 夫婦関係得点が高いほど、母子相互作用を促進する関わりや児への関心・献身的な行動に関する母親役割行動得点が高かった。

〔受付 '10.06.10〕
〔採用 '11.05.25〕

文 献

- 1) 石橋君子, 大坪智美, 正崎仁恵, 他: 夫婦の意識が相互の育児不安に及ぼす影響, 母性衛生, 43(4): 541-548, 2002
- 2) 高橋有里: 乳児の母親の育児ストレス状況とその関連要因, 岩手県立大学看護学部紀要, 9: 31-41, 2007
- 3) 沢宮容子, 田上不二夫: 育児不安を抱える母親への援助過程—注目スタイルの視点から—, カウンセリング研究, 38(4): 303-310, 2005
- 4) 菅原ますみ: 父親の育児行動と夫婦関係, そして子どもとの精神的健康との関連, 教育と情報, 483: 7-12, 1998
- 5) 石曉玲, 桂田恵美子: 夫婦間コミュニケーションの視点からの育児不安の検討—乳幼児を持つ母親を対象とした実証的研究—, 母性衛生, 47(1): 222-229, 2006
- 6) 牧野カツコ: 乳幼児をもつ母親の生活と<育児不安>, 家庭教育研究所紀要3: 34-57, 1982
- 7) 佐藤里織: 妊娠期および出産後におけるMaternal Attachmentと母親の育児態度との関連—妊娠初期から出産後18ヵ月までの縦断研究—, 小児保健研究, 64(3): 507-514, 2005
- 8) 関塚真美: 出産満足度と出産後ストレス反応の関連, 日本助産学会誌, 19(2): 19-27, 2005
- 9) 北島博之: 誕生の環境 分娩体験と母子関係, 助産雑誌, 62(10): 924-930, 2008
- 10) 三砂ちづる, 竹原健二: いいお産とはどのような体験か 豊かな出産体験を定義し, お産について再考する, 助産雑誌, 63(1): 22-31, 2009
- 11) Mercer RT: The process of maternal role attainment over the first year, Nursing Research, 34: 198-204, 1985
- 12) Mercer RT: A theoretical framework for studying factors that impact on the maternal role, Nursing Research, 30: 73-77, 1981
- 13) 菅原ますみ, 詫摩紀子: 夫婦間の親密性の評価—自記入式夫婦関係尺度について—, 精神科診断学, 8(2): 155-166, 1997
- 14) 花沢成一: 対児感情評定尺度, 母性心理学, 241, 医学書院, 東京, 2003
- 15) 平尾恭子, 上野昌江: 10代で出産した母親の母親行動とソーシャルサポートとの関連, 小児保健研究, 64(3): 417-424, 2005
- 16) 数井みゆき, 武藤隆, 園田菜摘: 子どもの発達と母子関係・夫婦関係—幼児を持つ家族について—, 発達心理学研究, 7(1): 31-40, 1996
- 17) 金井幸子: 乳幼児期の子どもをもつ母親の自己評価と夫に対する評価, 小児保健研究, 62(5): 552-557, 2003
- 18) 森恵美, 高橋真理, 工藤美子, 他: 母性看護学各論, 198, 医学書院, 東京, 2006

The Impact of Marital Relations and Satisfaction with Delivery on Feelings toward the Baby and Maternal Behavior

Sachiko Seiyama¹⁾ Mieko Shimada¹⁾ Tomomi Adachi²⁾

1)Osaka University Graduate School of Medicine, Division of Health Sciences

2)Hamamatsu University School of Medicine, Nursing Course

Key words: Marital Relations, Satisfaction with delivery, Feelings toward the baby, Maternal behavior

【Purpose】 This study described the impact of marital relations and satisfaction with delivery on feelings toward the baby and the maternal behavior of mothers at three months postpartum.

【Methods】 Participants were 87 mothers who were three months postpartum (response rate 36.7%). The questionnaires inquired about background, attitudes toward their babies, maternal behavior, marital relations, and satisfaction with delivery as a confounding factor.

【Results】 It was found that marital relation total score showed a significant positive correlation with scores for positive feelings toward the baby ($r=0.248$, $p<0.05$). The marital relation total score was positively correlated with overall maternal behavior score ($r=0.332$, $p<0.01$), some maternal behavior items 'I rub my cheek against me baby.' ($r=0.249$), 'I'm happy to see smile of my baby.' ($r=0.220$), 'I'm the first to say and speak to my baby.' ($r=0.269$), 'I'd like to do whatever my baby gets better.' ($r=0.299$, $p<0.05$). In addition, it was found that satisfaction with delivery showed a positive correlation with antagonistic index of feelings toward the baby ($r=0.250$, $p<0.05$), and satisfaction with delivery showed a negative correlation with some maternal behavior items 'I enjoy staying with my baby.' ($r=0.374$, $p<0.01$), 'I'm happy to see smile of my baby.' ($r=-0.244$), 'I'd like to do whatever my baby gets better.' ($r=-0.264$), 'I'm important person for my baby.' ($r=-0.239$), 'I'd like to stay with my baby as much as possible.' ($r=-0.225$) Baby's life rhythm doesn't suit my own interest.' ($r=-0.246$) My baby's care can take priority of my own life.' ($r=-0.248$) ($p<0.05$).

【Conclusion】 A good marital relationship related to upwelling of positive feelings toward the baby. In addition, this study suggests that maternal behavior is improved by a good marital relationship.